

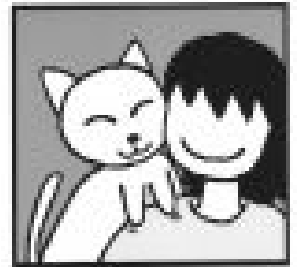
キャビちゃんのちょっといい話 Vol.1

H17.3.1発行
作成：スタッフ一同
監修・発行：かだ動物クリニック
tel 0944-56-7100
fax 0944-56-7107

わんこ・にゃんこ日記 ～うちの子自慢～

玄関でお出迎え

とにかくカワイイ♡



肩もみもみ
癒されます。

ちょーだい！
食べ物をもらう時
片手をあげる。

うちの車の車名を言うと
車の所まで行く。



洋服だいすき
自分で洋服をくわえ
て持ってくる。

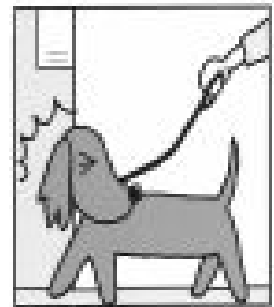
「ボール持って来い」
がとても上手！



お風呂だいすきっ
「お風呂」と言うと、タオルをく
わえてお風呂場まで行く。

どの犬とも
平気！

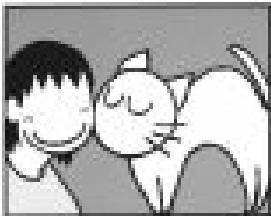
何事にもおりこうさん！



そこがカワイイ
散歩中、よそ見ばかりして
斜めに歩くので、よく電柱
にぶつかる…。

お互いの気持ちや言
葉が伝わります。

パワー全快!!



すきすきっ
「好き好きして～」と言
うと、ほおずりしてくれる。

血液検査シリーズ カリウム (K)

今回は電解質検査の一つであるカリウムについて書いてみたいと思います。動物の体内のカリウムはその98%が細胞内に存在し、血清中に分布しているのはわずか2%です。カリウムは細胞内の浸透圧維持や細胞の活性維持を担っていて、心筋・骨格筋・消化管などの機能に重要な役割を果たしています。

食物中に含まれるカリウムは消化管(主に小腸)から吸収され、血液中に入って全身に分配されます。そして排泄はほぼ90%が腎臓から尿中へ排出され、便や汗として排出されるのはごくわずかです。

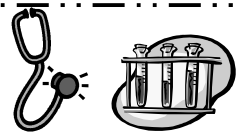
<低カリウム血症>

カリウムが低下する原因としては食欲不振や食餌中のカリウム不足によるカリウムの摂取減少と、下痢や嘔吐による喪失、腎不全の多尿期における尿からの喪失などの他に、副腎皮質機能亢進症、低体温、高脂血症、高血糖などがあります。

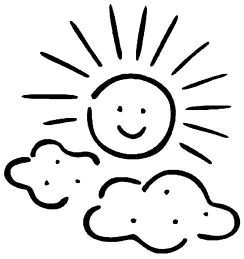
<高カリウム血症>

カリウムが上昇する原因としては慢性腎不全の末期、尿道閉塞などによる尿排出量の低下の他に、副腎皮質機能低下症、血小板増加症、激しい運動などがあります。

また一部の秋田犬や柴犬では他の犬種より高値になる事があるので病気との判別が必要になってきます。

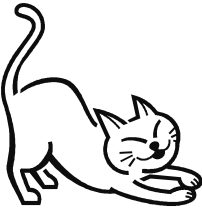


猫の性



猫の性周期が犬とは違うことを知っていますか？猫の発情は日照時間によってコントロールされています。日照時間の長い春から秋にかけて発情し、日照時間の短い冬は発情しないのです。ところが、一般の家庭で飼われていて、電灯に照らされている猫の多くは、年中繁殖動物になり冬でも発情します。妊娠をしないと通常2～3週間ごとに繰り返します。短い間隔で4日に1回発情するとされています。

発情中、猫は生物あるいは物体に身体をこすりつけたり、回転したり、時にはとても愛情深くなったりします。メス猫は激しいうなり声や呼び声で絶えず鳴き叫



びます。特に背中をなでると、前かがみになってお尻をあげ尾をよける姿勢をとります。こういったメス猫の発情に刺激され、オス猫は興奮し、もともとの縄張り争いに更にメス猫の獲得競争が加わり、激しいオス同士の戦いが始まります。

猫の排卵は犬や人と違い、自然排卵ではなく、交尾の刺激によって起こる交尾排卵になります。妊娠期間は平均65±3日です。出産後の発情周期の開始は出産後2週間から離乳後2週間の間です。ですから、授乳期間中に発情がきたら、子育てをしながら妊娠する事があります。また、メス猫は交尾後すぐに、同じオス猫か別のオス猫と再び交尾をする事があるので、1回の出産で複数の父親の子供を生む事が可能です。

犬は生理中だけ注意すれば妊娠は避けられますが、猫の場合はそうもいきません。たった1回脱走ただけでも、妊娠する可能性大なのです。外に出れば交通事故、ケンカ、病気の感染などの危険がたくさんあります。また、妊娠し出産する事で不幸な猫が増えてしまうこととなります。ですから猫は不妊手術をして、室内で飼うことを

海外の犬事情

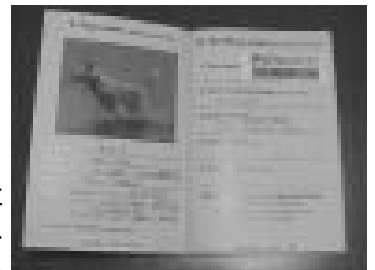
イギリスには子犬を販売するペットショップが無いってご存知ですか？

ブリーダー以外が子犬を売ることを法律で禁止しているそうです。(例外としてハロズのペットショップでは販売されていますが、購入できるのはイギリス在住者のみで、厳しい審査の上購入できる)犬が欲しい場合、飼いたい犬種のブリーダーのところへ行き、ブリーダーと直接話をして、ブリーダーが「この人になら、この子犬を任せられる…」そう思えば購入する事が出来るのです。ブリーダー自体も日本で言われるブリーダーとは違い、繁殖と販売に対する法律にのっとり、厳しい条件の中でブリーディングしています。その法律とは、

- 犬が1歳になるまで交配してはいけない。
- それぞれの犬につき一生のうちに6回までしか出産させてはいけない。
- 出産後は12ヶ月経たないと次の出産をさせてはいけない。
- 子犬は生後8週間経たないと新しい飼主に譲渡できない。… 他

ヨーロッパでの旅行は犬連れが当たり前！

犬が家族の一員として扱われるヨーロッパでは、ほとんどの場所に犬が立ち入る事が出来ます。空港だってリードさえつけていれば自由に歩く事が出来るそうです。そんな中、EU加盟国では昨年10月1日より「犬のパスポート」が発行されるようになりました。犬を出入国させる時にはこのパスポートが必要なのです。パスポートには「種類・名前・生年月日・住所・狂犬病など予防注射の接種日・マイクロチップ番号・特徴」が書かれ、犬の写真が貼られています。ライセンスを持った動物病院で発行され、発行手数料は各病院で異なり、日本円で約800円～1,600円。さすが犬の先進国ですね。基本的なマナーのしっかり出来た国では、このように犬の存在を家族と認めてくれて、とても自由で住みやすい国となっています。日本がこの国のようになる日はやってくるのでしょうか…？犬を飼っている私たち一人一人にかかっているのでしょうか。



セミナー出席報告

11月28日 小動物講習会(小動物の脊椎疾患)に出席しました。椎間板ヘルニアを中心に脊椎疾患の診断や治療法などについて、とても勉強になりました。

獣医師 中村 倫子

たくさんの学会・セミナーに出席したため不在日が多くなり皆様にはご迷惑おかけしました。

院長 加田 裕二

ご協力ありがとうございます

受付カウンター上の募金箱を1月に開封しました。21,075円をJ A H Aへ送金いたしました。

休診日カレンダー

毎月20日過ぎ頃から次月の休診日及び院長不在日を記入したカレンダーを置いていますが、作成後に変更になる事もありますので、ご来院の際はご確認下さい。